

浅川ダムに関するこれまでの経緯

1. 浅川ダム前計画の経緯(治水安全度1/100)

- ・ 昭和52年 4月 実施計画調査
- ・ 昭和60年 4月 建設採択
- ・ 平成12年 9月 本体工事契約

2. ダム本体工事の中止

- ・ 平成12年11月 田中知事(当時)が浅川ダム本体工事を一時中止
- ・ 平成13年 2月 田中知事(当時)が「脱ダム」宣言(平成14年9月 本体工事契約解除)

3. ダムによらない治水対策の検討(平成13年6月～平成15年12月 :治水安全度1/100)

- ・ 学識経験者や流域住民らの参加のもと(長野県治水・利水ダム等検討委員会)、森林整備、遊水地、ため池活用、水田活用などの流域対策を考慮した「ダムによらない治水対策」を検討。
- ・ 治水対策等について、流域住民(当時115名)と県市町で構成する流域協議会で議論。
- ・ 改修済み河川の再改修や遊水地・水田活用等の流域対策について、流域協議会の理解が得られず。

4. 河道内遊水地による検討(平成15年12月～平成16年9月 :治水安全度1/100)

- ・ 流域協議会等の意見を踏まえ、県は抜本的な見直しを実施。
- ・ 県は技術検討案として「河道内遊水地(実質は流水型ダム)」を提示。
- ・ 河道内遊水地については、流域協議会等で「ダムと同じ」として賛否両論で紛糾。

5. 将来計画を先送りした当面20年間の計画案検討(平成16年9月～平成18年8月)

- ・ 将来計画は1/100とするも、河川改修、ため池及び遊水地により当面上流部1/30、下流部1/60とする暫定計画案を提示。
- ・ 国は、上下流一貫した1/100の計画の策定等を指導。
- ・ 県は、地下放水路案などを提示したが、技術的な課題から国の理解が得られず。また、地元からも受け入れを反対され、ダムなしの計画が行き詰まる。

6. ダムを含めた治水計画の再検討(平成18年10月～平成19年8月 :治水安全度1/100)

- ・ 村井知事(当時)は、ダムという選択肢も含め、環境への影響、経済性、効率性を考慮する中で幅広く検討し、最高の科学的、技術的判断に基づいて最終的な治水対策案とすることを表明。
- ・ 県は、ダム、遊水地、放水路、ため池貯留などを組み合わせて幅広く対策案を検討。
- ・ 県は、最終的に「治水専用ダム」と「河川改修」の組み合わせを最適と判断。
- ・ 河川法の手続きに基づき、平成19年8月に河川整備計画が認可。

7. ダム本体工事

- ・ 平成22年3月12日 浅川ダム本体工事契約について県議会の議決を得る。(本契約締結)
- ・ 平成22年5月 浅川ダム本体工事着工。
- ・ 平成22年9月～11月 浅川ダム論点再確認作業。
- ・ 平成22年11月29日 阿部知事が浅川ダムの建設継続を判断。
- ・ 平成22年12月～平成23年1月 論点再確認報告書の概要と建設推進の知事判断に関する住民説明会(2回)及び流域協議会開催。
- ・ 平成23年9月13日 浅川ダム堤体コンクリート初打設。
- ・ 平成26年7月 2日 浅川ダム堤体コンクリート最終打設
- ・ 平成28年10月～平成29年2月 浅川ダム試験湛水(湛水期間)
- ・ 平成29年3月17日 浅川ダム完成 運用開始

浅川ダムに関する疑問などについては、下記の長野県ホームページでお答えしています。
「浅川ダムに関する疑問にお答えします」

<http://www.pref.nagano.lg.jp/doboku/kasen/keikaku/asakawatisui/asakawasitsumon.htm>

問い合わせ先

長野県建設部河川課
〒380-0836 長野市南長野幅下692-2
TEL 026-235-7308 FAX 026-225-7069
E-mail:kasen@pref.nagano.lg.jp

長野県長野建設事務所浅川改良事務所
〒380-0836 長野市南長野南県町686-1
TEL 026-234-9548 FAX 026-234-9562
E-mail:asakawa@pref.nagano.lg.jp

平成29年5月改訂

信濃川水系一級河川浅川 国庫補助治水ダム建設事業

浅川ダム



浅川ダム(試験湛水満水時)



市街地を流れる浅川

長野県

目的 ～浅川流域住民の生命・財産を水害から守ります～

浅川は長野市の新興市街地を流れ千曲川に合流する中小河川ですが、その延長は短く流れは急峻で、改修事業着手以前は天井川であったことなどから、水害が頻発していました。さらに流域では近年都市化が進展し、ひとたび河川が氾濫した時に想定される被害は甚大なものになると考えられました。また、近年全国各地で「ゲリラ豪雨」と呼ばれる豪雨が頻発しており、浅川流域の治水対策が急務となっていました。

このため、浅川流域住民の生命・財産を水害から守るため、治水安全度を年超過確率1/100と定め、森林整備や遊水地、ため池利用などダムによらない対策も含め、様々な治水対策を住民参加のもと立案・検討してきました。その結果「河川改修」と「治水専用ダム」を組み合わせた対策が最適であるという判断に至り、浅川の河川改修事業と併せて治水専用施設として、ダムを建設することとなり、平成29年3月浅川ダムが完成しました。

※年超過確率1/100とは、1年間にその規模を超える洪水が発生する確率が1/100（1%）であること。

浅川ダムは「環境に優しいダム」です。

浅川ダムは、「流水型ダム」にすることにより、普段は川に水が流れ、ダムに水が貯まることはありません。そのため、土砂の流下や魚の遡上を妨げません。

また、普段はダムに水を貯めないことから富栄養化などの水質悪化もありません。

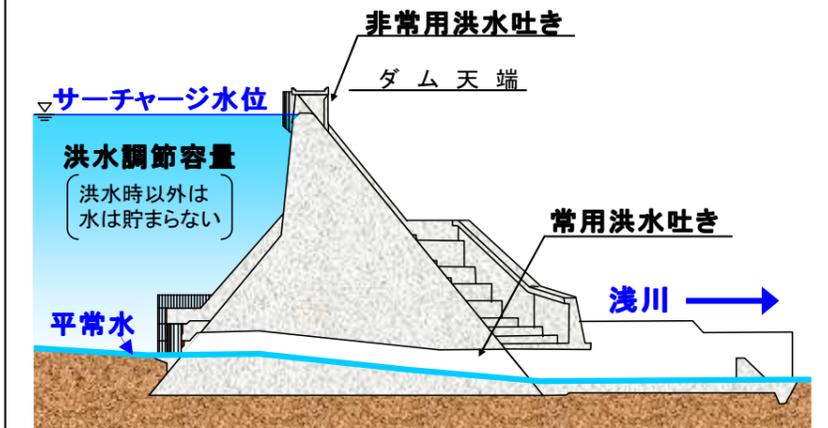
さらに、ダム内を水が流れる穴（常用洪水吐き）には、魚が遡上しやすいよう魚道を設置しています。

このようなことから浅川ダムは、環境に与える影響を軽減する「環境に優しいダム」です。

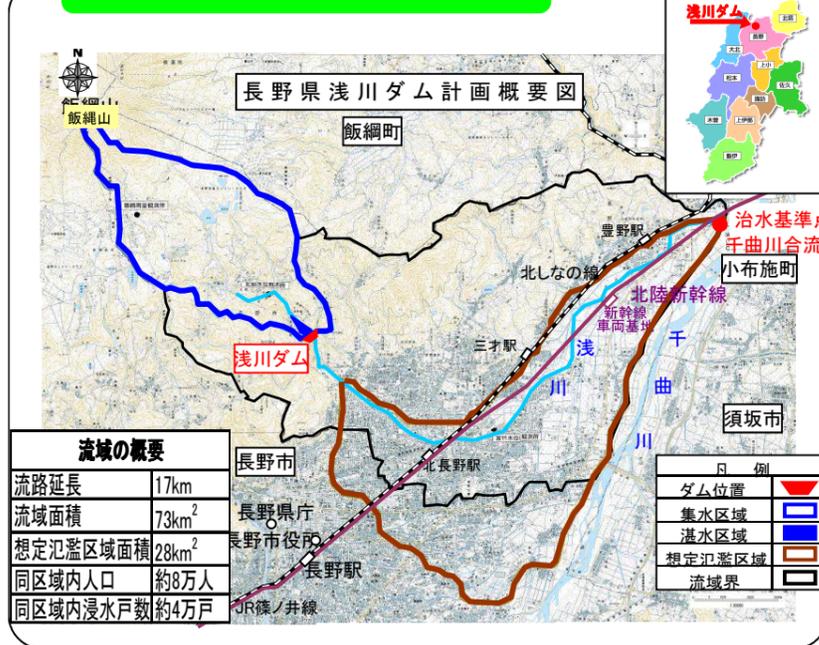
浅川ダムの概要

- 場 所 長野県長野市浅川ーノ瀬
- 目 的 洪水調節
- 形 式 重力式コンクリートダム
- ダ ム 高 53 m
- 堤 頂 長 165 m
- 堤 体 積 14万3千 m³
- 総貯水容量 110万 m³
- 洪水調節方式
 - ・常用洪水吐き 自然調節
(高さ1.45m×幅1.3m×1門)
 - ・非常用洪水吐き 自由越流
(高さ1.8m×幅13m×6門)

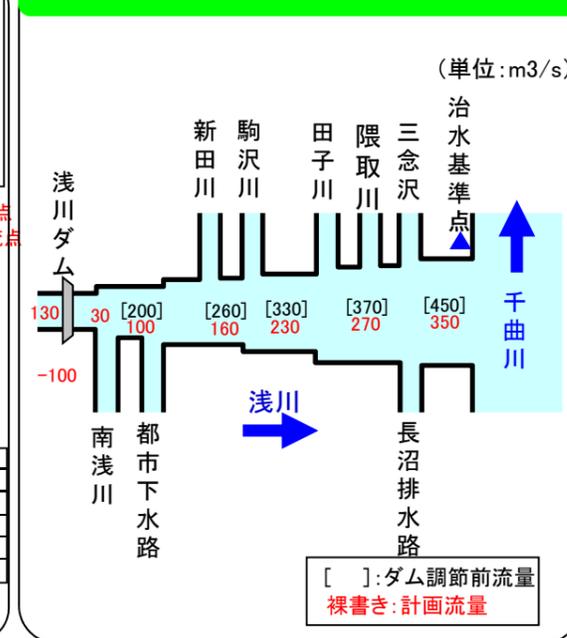
浅川ダム標準断面図



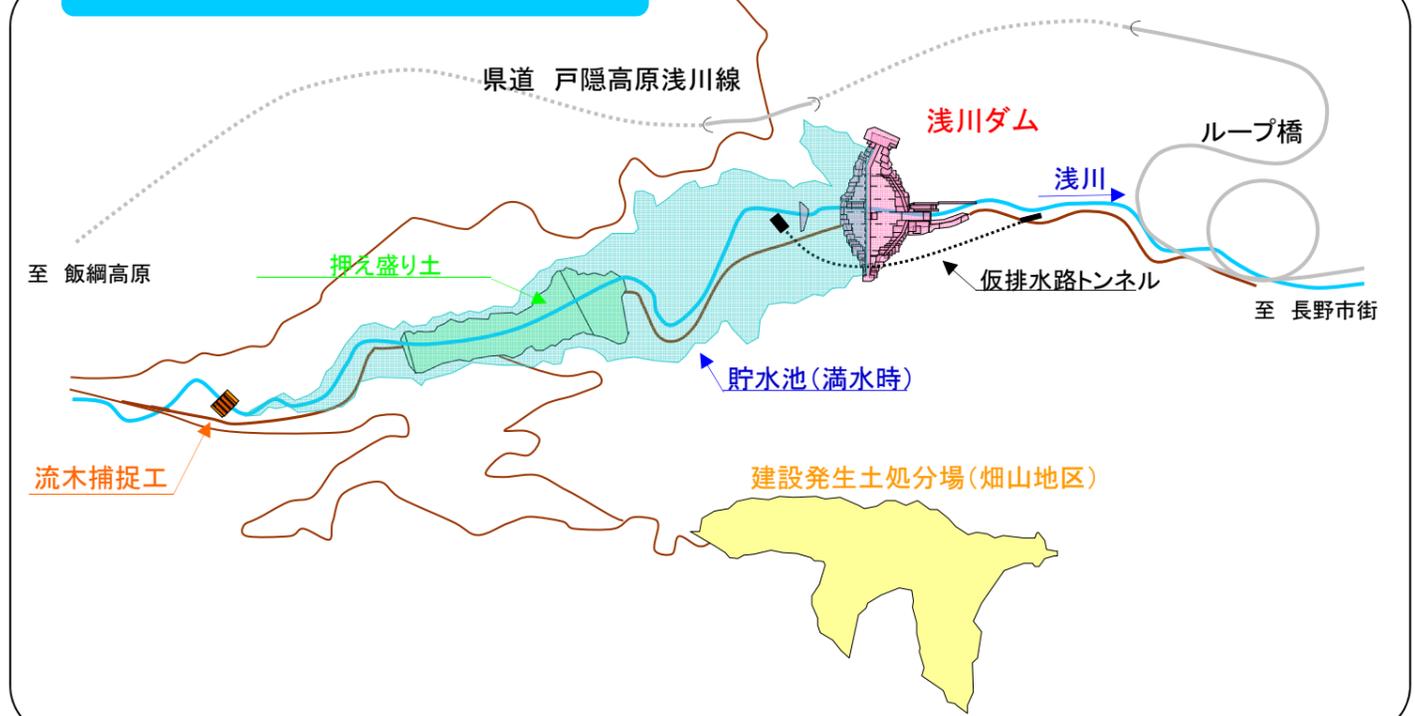
浅川ダム計画概要図



浅川流量配分図(1/100確率)



浅川ダム計画平面図



河川整備計画(浅川)の概要

○外水対策として、治水安全度1/100、千曲川との合流点で基本高水のピーク流量450m³/s（想定している洪水）に対応するよう、「治水専用ダム（100m³/s分に対応）」と「河川改修（350m³/s分に対応）」を併せて実施しました。

○内水対策として、浅川排水機場の増強や流域対策を行い、床上浸水被害の防止軽減を図っています。

※浅川の洪水は、その発生原因から外水氾濫と内水氾濫があります。

- ・外水氾濫は、浅川流域への降雨によって発生した洪水が、浅川の流下能力を超えること等によって、越水や破堤して浸水被害が発生するものです。
- ・内水氾濫は、千曲川の水位が浅川の水位より上昇した場合に、浅川への逆流を防ぐため、千曲川合流点の樋門を閉鎖し、排水機場により浅川の流水を強制排水することとなりますが、浅川の流量が浅川排水機場のポンプ能力を上回った場合に堤防を越水して、浸水被害が発生するものです。